関口存男における前置詞 in

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 清昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/16

関口存男における前置詞 in

佐藤　清昭
（日本語・日本事情）

Die Präposition "in" bei Sekiguchi T.

SATÔ Kiyoaki
Japanisch u. Japanische Angelegenheiten

Zusammenfassung

Der japanische Philosoph und Sprachwissenschaftler SEKIGUCHI Tsugio (1894-1958) wollte nach seinem monumentalen Werk "Der Artikel" (Tokyo 1960/61/62, 3 Bde., insgesamt 2 301 Seiten) Arbeiten wie "Die Präpostion", "Das Adjektiv", "Das Adverb" u. a. schreiben, die aber wegen seines Todes nicht ausgeführt werden konnten. Uns, die ihm nachfolgenden Forscher, interessiert nun, was für Werke über diese Themen in Bezug auf Inhalt, Form und Umfang entstanden wären.

Die Absicht der vorliegenden Arbeit besteht darin, die Bedeutungstypen ("imi keitai") der Präposition "in", die sich bei SEKIGUCHIs Werken und bei seiner Sammlung der Beispielssätze, Collectanea, befinden, aufzuzählen und ordnungsgemäß darzustellen.

Es lassen sich bei SEKIGUCHI 25 Bedeutungstypen von "in" feststellen, die teilweise in Über- und Unterverhältnissen stehen.

key words: SEKIGUCHI Tsugio, grammar, preposition, German preposition "in"
キーワード: 関口存男，意味形態，前置詞，in

0. はじめに

0. 1. 関口存男（1894 − 1958）は文法研究において，「前置詞」という品詞を重要視していた。それは例えば次の点から主張できる。

1) 関口の遺作となった「冠詞」[1] のいたるところに前置詞についての詳しい記述が見られること[2]
2) 関口が，「冠詞」に続く著作のひとつとして「前置詞論」を考えていたこと[3]
3)「ドイツ語前置詞の研究」[4] の「序 (2)」に次のような言葉があること
「いまちょうど冠詞論をやっていますが, ひょっとすると冠詞論だけでおしまいになるかも知れません。つまり，計画したことの十分の一ないし二十分の一で人生がおしまいになるわけです。/ ところで，冠詞論を書いている最中，たびたび問題になるのが前置詞の用法で，これだけは, せめて此の書その他でいろいろな印象的な普通の場合だけでもチョッチョッとまとめておいてよかったと，つくづく思います。たとえ，ごく啓蒙的な，不完全な説き方であるにせよです。」

0. 2. 「前置詞論」は執筆されることなく終わった。しかし，関口の個々の著作に認められる前置詞についての詳しい記述，そして Collectanea の中の膨大な前置詞の文例は，「前置詞論」の概要を示していると思う。

ただし，この概要が単に個々の前置詞の「意味内容の羅列」に終始するのではなく，そこに学問的な秩序を与えるためには，以下の関係，あるいは区別が考慮されなければならない。[5]

1) それぞれの前置詞が「それ自体」としてもつ意味内容（System-Bedeutung）と，そこから「派生した」意味内容という「上位と下位の関係」
2) System-Bedeutung から派生した「意味内容」の間で認められる「上位と下位の関 係」(「Ａという意味項目はＢに包摂される」という関係）
3)「具体的な文脈」に無関係な意味内容と，「具体的な文脈」内ではじめて生じる意味内容との区別

0. 3. 前置詞の用法は，動詞との関係から研究されるべきである。そのことを関口は次のように説明する。

「前置詞研究は，動詞の前置詞支配なる現象をば，逆に，前置詞の意味形態を明確に把捉することによつて段々と系統付けて始めて真の研究たり得るのです。その方法は，極くわかり易く云へば Typologie（類型論）と名づけることも出来ませう。」[6]

「以下の實例においては，何時も申すことですが，單に an だけではなく，その an と**どういふ種類の動詞が結びつき得るか**という事に特に注目して頂きたいと思ひます。つまり結局は廣い意味での

動詞の前置詞支配に關する研究ですから。」[7)]

「驗證の an は，或點に於て，しばらく前に述べた『仕打ち』の an とよく似てゐるから注意を要します。... かういふ場合にはすべて動詞がどんな意味であるかを基準にして分類すべきで，動詞の意味によつては中間現象も生ずる譯です。」[8)]

しかし前置詞の「意味形態」が，一方的に（それを支配する）動詞の影響のもとに生じるわけではない。そこには当然,「前置詞の側からの働きかけ」も存在するはずである。当該の前置詞の「本質」から生じる「意味形態」である。[9)]

0. 4.　本稿においては前置詞 in について，関口存男が確認した意味形態（意味内容の類型）を挙げ，その間の相互関係を求める。

1. 前置詞 in の意味形態[10)]

① 同一視の in　　【3 格】

● A = B，すなわち A が B であるという論理関係を前置詞で言い表すときの筋道。

Früher sah man ***in Kometen*** Vorboten schrecklicher Ereignisse.「昔は彗星は凶事の前触れであった」｜ Wir leben ***in unsern Kindern und Kindeskindern*** weiter.「私たちは私たちの子々孫々となって生き続けるのである」｜ Ich möchte so sehr, daß der alte Mensch ***in mir*** abgestreift würde.　わたしは，わたしという者の中にある所謂る「旧きアダム」を，なんとかして脱却したいと思っています｜ Ich vermute, Sie sind Witwe und leben in einem Kreis wahrscheinlich älterer Personen, wo Sie nur zur Erfüllung Ihrer Pflichten kommen und wo der Mensch ***in Ihnen*** ganz und gar erstickt wird. (Zeitung)　あなたはおそらく未亡人の方で, あなたよりは年上の人たちの所に厄介になっておいでになって, お勤めがはげしく, 打ち明けた話をなさる相手がおありにならないのでしょう｜ Der Grieche, oder der Griechensüchtige ***in Nietzsche*** schämt sich des dem Christen eingeborenen gotischen Ideals, das ein Ideal des Leidens und der Entleiblichung ist; und selbst der christliche Mensch ***in ihm*** empfindet dunkel, daß das Leiden allein noch nicht rechtfertige vor dem sinngebenden Blick der Gottheit. (Bertram)　Nietzsche のギリシャ人気質, というよりはむしろギリシャかぶれした一面は, すべての基督教徒が生れながら持っている, 苦難の理想, 蝉脱の理想たるゴチック的理想を内々気恥かしく感じている。また, かれの裡なる基督教人さえも, 上帝の哲眼に見裁かれた日には, 苦難を楯にとったぐらいのことで片付く幕ではないということは薄々感づいてはいるのである｜ Ich warnte mich vor mir selber, vor dem Illusionisten, der ***in mir*** steckt. (Franz Werfel)　わたしは，わたし自身というものにはうっかり心を許すわけには行かないと思った。というのは即ち, わたしという男はどうも少しすぐ好い気になってしまうところがあったからである｜

GENOVEVA: Zurück! Und ehrst du nicht das Weib ***in mir***, / So ehr' ***in mir*** die Mutter, denn ich bin's! (Hebbel: Genoveva)　GENOVEVA: へんな真似をしないで下さい！女としてのわたしを甘くごらんになるなら，それはそれでよろしい。しかし，母としてのわたしに対しては，少しはお気兼ねというものがあってもよろしいのではないでしょうか。何をかくしましょう，わたしは母になったのです｜Nun steckt ***in Uli*** noch immer der einige zwanzig Jahre alte Bursche, der beim Flattieren warm wird und ein hübsches Mädchen lieber hat, als ein wüstes. (J. Gotthelf)　ところが此の U1i という男，見かけによらず，まだ二十才そこそこの青年みたいなところがあって，ちょっといちゃいちゃされるとすぐ鼻の下が長くなり，縞麗でない娘さんよりはどっちかといえばやはり縞麗な娘さんの方が好きだった｜"Die ganze Forst hierherum ist Reiher-Forst. Ueberhaupt ein rechter Jagdgrund, Schwarzwild und Damwild in Massen, und in dem Schilf und Rohr hier Enten, Schnepfen und Bekassinen." "Entzückend," sagte Botho, ***in dem*** sich der Jäger regte. (Th. Fontane)　『此のあたり一たいの森は，湿森といって，とにかく猟にはもってこいだ，野猪や鹿なんかうんといる，此の葦の生えたあたりなんか，鴨でも鴫でも，何だっているよ。』『好いなあ！』猟の話となると矢も楯もたまらぬ Botho の眼は光った｜***In Fiesco*** siegt, als er die Macht hat, der Herzog über den Republikaner, und darum stürzt ihn Verrina, der starre Demokrat, ins Meer. (Zeitung) Fiesco は，政権を手に握ると，たちまち共和党員たることを忘れて公爵風を吹かせはじめる。だから一徹の民衆党員 Verrina のために海中に突き落されるのである｜Das Tier kommt ***in ihm*** zum Durchbruch. (Duden: Stilwörterbuch)　かれの心には鎌首をもたげた野獣性がいよいよその無軌道振りを発揮しはじめる｜***In jedem genialen Mann*** steckt ein Stück Philister. (Zeitung)　天才にも，みなそれぞれ，多少俗物的な一面がある｜***In jedem Jungen*** steckt ein Stückchen Soldat. Er will marschieren, trommeln, trompeten, präsentieren, schießen. (Marie Grimm)　男の児はみんな多少兵隊がすきで，おいちにをしたり，小太鼓を叩いたり，ラッパを吹いたり，捧げ銃をしたり，射撃をしたりすることを好む｜Möglicherweise steckt ein Dichter ***in ihm***. (Th. Mann)　ひょっとすると，かれには詩人的素質があるかも知れない｜***In mir*** nämlich leben zwei völlig abgesonderte Wesen. Ein Dichter von der übergreifendsten, ja sich überstürzenden Phantasie, und ein Verstandesmensch der kältesten und zähesten Art. (Grillparzer)　私という男は，二つの全然別々な面を持っている。一つは，最も無軌道な，ひどい暴走ぶりを発揮する空想力を備えた詩人的一面，他の一つは，最も冷静且つねばりこい性の「頭の人」という一面である｜Dem Prinzen starb eine Braut ***in seiner jungen Mutter***. (Schiller)　王子にして見れば，彼女を若き母として迎えたということは，つまり花嫁を喪ったということになるのだ｜Unter den neuen Einwanderern, die zumeist Briten waren, erwuchs "Ohm Krüger" aber ein gefährlicher Gegenspieler ***in Cecil Rhodes***. (Zeitung)　大部分英人であった新入国者のうちで，Cecil Rhodes という男が Ohm Krüger にとっては侮りがたい仇役となった｜Wir ziehen uns ***in Rudolf*** einen Mustermenschen auf. (B. v. Suttner)　今に見ていてごらんなさい，うちの Rudolf は立派な人間になりますよ｜In Oesterreich war ***in Joseph II***. ein Aufklärer auf den katholischen Kaiserthron gekommen, der zwar mit seinen allzu kuhn sich überstürzenden Reformen scheiterte. (Th. Ziegler)　墺国では Joseph 二世という啓蒙運動者が加特力教

国の王位を継承したが，惜しい哉その革新政策は，大胆無謀な強行のために失敗に帰した

♥ in はもちろん「中」という原意を保有している。例えば次の例文では，表面 (außen) は未知の人で，よく見たら内部 (innen) は市長さんであったという概念機構である: Sehe ich ***in Ihnen*** den Bürgermeister dieser Stadt? あなたはこの市の市長さんでいらっしゃいますか？

♥ この in は，時には同時性を表現する mit であってもよいことがある: ***Mit ihm*** ist einer der größten Staatsmänner dahingegangen.「彼が亡くなったことにより最も偉大な政治家の一人が失われた」｜In Oesterreich kam ***mit Joseph II***. ein Aufklärer auf den katholischen Thron.「オーストリアではヨーゼフ 2 世が啓蒙主義者としてカトリックの王座についた」

♥「同一視の in」は，ほかに Identitäts-in, Persönliche Identität とも名づけられる。

【冠詞 I: S. 481-483, 487-489, II: 294-297; 和文独訳の実際: S. 68-70; 文例集 (29) 前置詞: S. 609-613, 624-633】

② 従事方面の in　【3 格】

● 従事方面，活動領域，没頭事項を示す。

Er übt sich ***im Schießen***.　かれは射撃の練習をしている｜ Sie unterrichtet mich ***im Tanzen***.　彼女が私にダンスを教える｜Ich versuche mich ***im Maschienenschreiben***.　私はタイプライターをやってみる｜Er hat sich ***im Schönschreiben*** ausgezeichnet.　かれは書道で名を揚げた｜ Er will sich ***im Komponieren*** weiterbilden.　かれは作曲の方で修業を積もうとしている｜***Im Dichten*** wirst du es nie zu etwas bringen. 詩の方は，おまえなんかいくら作ってもだめだ｜ Der Lärm hier nebenan stört mich ***im Denken***.　隣のさわぎがえらいので，おちおち物が考えられない｜ Sie blickte nicht einmal auf und fuhr ***im Stricken*** fort.　彼女は眼も上げず，相変らず編物をしていた｜ Sie läßt sich ***im Lesen*** nicht unterbrechen.　彼女はそしらぬ顔をして本を読んでいる｜ ***Im Sammeln*** war er unverdrossen. かれは丹念に蒐集した｜Lachend und Schweiß vergießend, konnten die beiden nur langsam ***in dem Geschäft*** fortschreiten. (Tieck) 二人は，笑ったり汗を流したりで，仕事の方は一向はかが行かなかった｜ Er ist ***in allen Sportarten*** sattelfest.「彼はスポーツにおいてはなんでも来いだ」

♥ in の後の名詞は原則として定冠詞を伴う。

♥「従事方面の in」は，その能力を評価したり，他と比較したりする場合には，次項の「見地の in」として現れる。

♥「従事方面の in」は一部，「従事対象の mit」と合致する。

♥「従事方面の in」は，「進行過程の in」と一致する場合がある: Ich will niemanden ***in der Ausführung*** seiner guten Vorsätze hindern. (Sudermann)　私は他人が殊勝な心掛けを実行するのを妨げようとは思わない

♥ 文例集 (80) in の 167 ページには「没入・耽溺の in」として次の例があがっている: sich ***in ein Experiment*** verbeißen「実験に熱中する」

【冠詞 I: S. 792-795, 954, 966-970; 文例集 (82) 前置の in: S. 3-23】

③ 見地の in　【3 格】

Die Butter steigt ***im Preis***.　バターの値段が上がる｜***Im Erraten*** bin ich kein Meister.　謎を解くのは得意じゃありません｜***Im Sprechen*** ist er gewandt.　喋舌る方はお得意だ｜***Im Trinken*** sei mäßig.　飲む方は程々にせよ｜***Im Bedienen*** ist man hier so langsam.　此処はサービスがのろい｜ Er ist ***im Verschwenden*** so leichtsinnig.　かれは金の使い方が軽率だ｜Du kennst seine Stärke ***im Auswendiglernen***. 君はあの男の暗記力のすばらしいことは承知だろう｜***Im Bezahlen*** sei pünktlich.　金払いは几帳面にせよ｜ Er ist nur ***im Auftreten*** bescheiden.　かれは素振りだけが謙遜なんだ｜ Die meisten Autoren sind ***im Interpungieren*** sehr unsicher.　大抵の著書は句読点の打ち方が非常にあやふやだ｜ Das japanische Volk ist flink ***im Nachahmen*** der fremden Sitten. 日本人は外国の習慣を真似することにかけてはすばしこい｜ Die Luft besteht ***im Wesentlichen*** aus Stick- und Sauerstoff.　空気は主に窒素と酸素からなっている｜Jedes Bier ist ***im Geschmack*** verschieden.　どのビールも味が違っている｜Die Eltern sind uneinig ***in der Meinung***.　父兄たちは意見がまちまちである｜ Zwei Wurzeln kann man nur dann multiplizieren oder dividieren, wenn sie ***im Exponenten*** übereinstimmen.　二つの根は，指数が同じ場合にのみ割ったり掛けたりすることができる｜ Das Prädikatsnomen richtet sich ***im Genus*** wie ***im Numerus und Kasus*** nach dem Subjekt.　述語名詞の性数格は主語によって決まる｜Als Diogenes einst einen Knaben aus der Hand trinken sah, soll er seinen hölzernen Becher aus dem Ranzen genommen und ihn mit den Worten "Ein Kind hat mich ***in der Genügsamkeit*** geschlagen" weggeschleudert haben. (Wolf u. Schweizer)　かつて Diogenes は，一人の少年が手で水をすくって飲むのを見たとき，ずた袋の中から木製の杯を取り出して,「わしは無慾活澹の競争で子供に負けたわい」と言いながら，これを捨てたという｜ Wenn der Morgendunst sich verzogen hatte, sah ich den Steinadler reglos in der klaren Luft stehen, den Räuber mit neidenswerten Augen, herrlich ***im Niederstoß*** und königlich ***im Aufflug***. (Thieß)　朝霞があがると,清く澄んだ空中に大鷲が羽根をひろげて凝と浮かんでいるのが見えた。大鷲は，羨ましいほど立派な眼をした猛禽で，急転直下，襲い来たるや颯爽，飛び去るや悠々たるものがある｜ Wenn schon ***im Umriß*** mehr oder weniger sämtlich einförmig, weichen nämlich die Schädel voneinander ***in Länge und Breite*** doch beträchtlich ab. (Heilbronn)　というのは，いったい人間の頭蓋は，輪廓においてはいずれも多少卵形をしているにかかわらず, 長さと幅では各々相当のひらきを見せている｜... als er aber die Stufen des Thrones erstieg, sank er immer tiefer ***im Werte***; man konnte von ihm sagen: er ist die rote Treppe hinaufgefallen. (Heine)　...ところが，いよいよ玉座の階段に足をかけて登極すると同時に，沽券の方はガタ落ちの状態に陥入った。紫金のきざはしを下から上へ転落したというのが此の人の身の上である｜Bis jetzt

hab' ich den ungeheuren Quader ohne Menschenhilfe gewälzt; hart am Ziel soll mich der schlechteste Kerl ***in der Rundung*** beschämen? (Schiller)　おれはただ今まで此の巨大な石材を誰の力をも借りず此の腕一つで山の上まで転がし上げて来たんだ。今ひと息と云う所で根負けして，そのへんの大馬鹿野郎に画竜点睛のお手本を示されて男を下げるなんてことが出来ますかッてんだ｜Jeder suchte den andern ***in Emsigkeit*** zu übertreffen. (Tieck)　みんなが競って一生懸命になった｜ Chaucers "Canterburysche Erzählungen" sind ***in Anlage*** und zum Teil auch ***im Inhalte*** Nachbildungen von Boccaccio's Decamerone. (Weber)　チョーサーのカンタベリー物語は，構想に於ても，また一部は内容の点でも，ボッカッチョの十日物語の模倣である｜ Nur ***in Entwürfen*** bist du tapfer, feig / ***In Taten***? (Schiller)　あなたは，ただ計画ばかりが御勇敢で, 実行になると急に怖じ気づくのですか？｜***im Grundsatz*** (= grundsätzlich) 原則として｜ ***in der Theorie*** (= theoretisch)　理論的には

♥ 前項の「従事方面の in」は，その能力を評価したり，他と比較したりする場合には，この「見地の in」として現れる。
♥「見地」の表現には,「見地の an」,「見地の nach, hinsichtlich, in Hinsicht auf, in Ansehung des, in (mit) Rücksicht auf」など多くの前置詞があるが，名詞が不定形名詞の場合は「見地の in」に限る。
♥ in の後の名詞は原則として定冠詞を伴う。
♥「見地の an」との違いは，in が「領域」または「従事方面」の含みをもった見地であるのに対し，an は「性質」,「具有性」の含みをもっている。
♥「見地」を表す文肢は，とかく動詞と一体となって一つのまとまった観念をなすことが多い。例えば jemanden ***in seiner Arbeit*** stören は，stören の側から考えると,「stören という動詞が in を支配する」という関係になってくる。

【冠詞 I: S. 793-794, 947-954, 962-966; 文例集 (82) 前置の in: S. 24-51】

④ 局限化の in　【3 格】（「見地の in」の一種）

● 見地をある一部分に限定する。

Die Diktatur ist ***in ihrem Prinzip*** kulturfeindlich.　独裁政治はその根本精神が反文化的である｜Er ist ***in seiner Gesinnung*** kleinbürgerlich.　彼はその了見においてプチブル的である｜ Seine Ausführung ist ***in ihrem Ausgangspunkt*** verfehlt.　彼の論述は出発点が間違っている｜ Der Krieg ist vor allem ***in seinen Folgen*** furchtbar.　戦争は何よりもその後が恐ろしい｜ Die tierische Zelle ist ***in ihrem Aufbau*** von der Pflanzenzelle wesentlich unterschieden.　動物細胞はその構造が植物細胞とは本質的に相違している｜ Nicht jeder kann diese Philosophie ***in ihrer ganzen Tiefe*** erfassen.　この哲学がどんなに深遠であるかということは，必ずしも誰もが把捉できるわけではない｜ Wollt ihr diese Vorschriften ***in ihrer ganzen Strenge*** befolgen?　諸君はこのクソやかましい規則を文字通り守ろうというのか？｜Nichts soll mich

in meinem Vorsatz wankend machen ! (Keller)「何ものも私の決意をぐらつかせるものではない」｜Die Magensenkung stört die Leber ***in ihrer Funktion***.「胃下垂は肝臓の機能をそこなう」｜Es liegt hier eine Schizophrenie ***im Anfangsstadium*** vor.「これは精神病の初期段階である」｜Jeden ***in seiner Eigenart*** zu verstehen und ihm gerecht zu werden, das ist seine Art und seine Freude gewesen.「誰でも，その個性において理解し，正当に評価すること，それが彼のやり方であり，喜びであった」

♥「局限化の in」は「一つの見地に局限する」という意味で，前項の「見地の in」の一種である。
♥ 主語をそのまま繰り返す所有冠詞が入るのが普通。
♥ in の次に来る名詞は，先に立つ主語，または4格名詞の概念を，いずれかの「一部分」に局限するか（Seine Ausführung ist in ihrem ***Ausgangspunkt*** verfehlt.），またはその「一性質」に限る（Wir haben die Weltkrise in ihrer ganzen ***Schärfe*** erfahren.）。
♥ in の句とそれが関係する語との間は, 2格を使って表現することができる: Die Diktatur ist ***in ihrem Prinzip*** kulturfeindlich. = Das Prinzip ***der Diktatur*** ist kulturfeindlich.

【冠詞 I: S. 969-970; 和文独訳の実際: S. 71-74; 文例集 (29) 前置詞: S. 586-600】

⑤ 進行過程の in　【3 格】

● ドイツ語には英語のような進行形がないが，自動詞の場合には「進行過程の in」と不定形名詞とによって同じことが表現できることが多い。この場合，不定形名詞には定冠詞がついて im となる。

Sie liegt ***im Sterben***.　彼女は死にかかっている｜Der Feind ist ***im Vordringen***.　敵はどんどん進出しつつある｜Ein neues Werk ist ***im Werden***.　新製品ができあがりつつある｜Das Wasser ist jetzt ***im Sieden***. 水は今や沸騰しつつある｜Das Wetter ist stets ***im Wechseln***.　天気は常に変わりつつある｜Er grüßte mich ***im Vorrübergehen***.　かれは通りすがりに私に会釈した｜***Im Reden*** stieg meine Begeisterung.　喋っているうちに私は夢中になってしまった｜Er saß lange ***im Nachsinnen*** da.　かれは長らく考え込んだまま腰をおろしていた｜***Im Weggehen*** sagte er mir etwas Wichtiges.　出かける間際にかれは私に重要なことを言った｜Ich bin nun einmal ***im Erzählen***.　どうせこうして話しはじめた以上はついでだ

♥「進行過程の in」は,「従事方面の in」と一致する場合がある: Ich will niemanden ***in der Ausführung*** seiner guten Vorsätze hindern. (Sudermann)　私は他人が殊勝な心掛けを実行するのを妨げようとは思わない
♥ 厳密な「進行過程」の表現には im ... begriffen を用いる。
♥ 動詞の意味がすでに進行的，あるいは状態的の場合は in を用いる必要はない。He is dying. は Er liegt ***im Sterben***. 以外に，単に Er stirbt. でよい。また動詞付加的・副詞的な場合には現在分詞も可: Er stand ***im Nachsinnen***. = Er stand ***nachsinnend***.

【冠詞 I: S. 795-796, 849-852, 968-969】

⑥ 付帯描写の in　【3 格】

● 主体の一部をなしている「属性」,「特色」,「性質」を描写する

Sie ***in Ihrer mehr äußerlichen Art*** werden nichts Rechtes zustande bringen.　あなたのやり方はどっちかというと形式的で,それでは到底ろくなことはできませんよ｜"Wir kommen, Ihnen ***in Ihrer Einsamkeit*** die Zeit kürzen zu helfen," sagten die Abderiten. — "Ich pflege ***in meiner eigenen Gesellschaft*** sehr kurze Zeit zu haben," sagte Demokritus. (Wieland)　『あなたは，見たところ一向お話し相手もおありにならないようですから，少しでもお退屈しのぎにでもなればと思って出かけてまいりました』とアブデラ市の人たちは言った。—『私は，話し相手といえば自分一人が話し相手ですが，退屈はもう十分しのげております』とデモクリトスは言った｜ Die bisherige Methodologie hat sich bemüht, die Kunstregeln des Denkens ***in ihrer Vollständigkeit*** zu sammeln und systematisch zu verarbeiten. Nicht so bei vorliegendem Werke.　従来の方法論は，思惟の定則を網羅するごとく蒐集し，それに系統的な加工を施そうと努めてきた。本書は違う｜ Auf ihn machte diese Mitteilung ***in ihrer Einfachheit*** einen tiefen Eindruck.　この報告は，すこぶるあっさりしていて，彼にはとにかく非常に深い印象を与えた｜ Das vorige Jahrhundert ***in seinem Idealismus*** sah die Welt aus der Vogelperspektive an; dieses in seinem Spezialismus sieht sie aus der Froschperspektive an; hoffentlich wird das nächste in seinem Individualismus sie aus der für den Menschen einzig berechtigen: nämlich aus der menschlichen Perspektive ansehen. (Langbehn)　前世紀は理想主義の時代であったので，人生を鳥瞰していた。今世紀は専門主義の時代だから，人生を蛙仰している。来世紀は願わくば個性主義の時代となって，人間として至当なる唯一の観方，すなわち人生を人観することになりたいものだ｜Das deutsche Volk ***in seiner geradezu unglaublichen Zähigikeit und Ausdauer*** überwand nach der Niederlage auch diesen Schock. (Zeitung)　「ドイツ国民はそのまさに信じがたいほどのねばり強さ，そして忍耐力をもって，敗戦の後もこのショックを克服したのである」｜ Es ist kaum anzunehmen, daß die Pyramide ***in ihren gewaltigen Ausmaßen*** nur dem Zweck dienlich sein sollte, eine Grabkammer für einen König zu beherbergen.「巨大な規模をもつピラミッドがただ，一人の王の墓室のためという目的のためだけであったというのは，ほとんど考えられないことである」｜ Gefährlich ist's, den Leu zu wecken, / Verderblich ist des Tigers Zahn; / Jedoch der schrecklichste der Schrecken / Das ist der Mensch ***in seinem Wahn***.「ライオンを起こすのは危険である / 虎の歯は破滅をもたらす / しかし恐怖のうちでもっともおそろしいもの / それは狂気をもった人間だ」｜ das Kind ***in seiner ahnungslosen Unschuld*** 小児とその頑是なき無邪気さ｜er ***in seiner mehr gelehrtenhaften Art***　あの人はどっちかというと学者肌の人で

♥「付帯描写の in」は，直前の名詞を受ける所有冠詞 (sein, ihr など) を伴うのが原則である。

♥「付帯描写の in」で導かれる句は，たいていの場合名詞付加的 (adnominal) である。

♥「付帯描写の in」で表される関係は，空間的関係で表そうとすると，「ちょっとどう言って良いか分からない」ほど，主体の一部をなしている「属性」である。

♥「付帯描写の in」は，④ の「局限化の in」，あるいは「主観的原因を表す in」に近づこうとする傾向がある。

♥「付帯描写の in」は，「具性描写の in」とも呼ばれる（独作文教程: S. 423）。

♥「付帯描写の in」は，「性格描写の in」とも呼ばれる（冠詞 I: S. 234）。

【冠詞 I: S. 969-970, 234-235; ドイツ語前置詞の研究: S. 45-59; 独作文教程: S. 423-425; 文例集 (80) in: S. 224-230】

⑦ 結果の in, 結果挙述の in　【4 格】

● 動詞によって示された動作が行われた後にはじめて生まれ出る「結果」をあらわす。ある動作の結果としてできあがる状態を表す。

Die einzelnen Arbeitseinstellungen gehen ***in einen Gesamtstreik*** über.「あっちこっちでストライキ騒ぎをしていたのが，段々と一斉ストライキに移っていく」｜ Zwischen zwei wahrhaften Gegensätzen ist in alle Ewigkeit hinaus keine Vermittlung möglich. Die wahre Vermittlung ist die Auflösung der Gegensätze ***in ein höheres Drittes***.　真に相反する二つの事柄の間には未来永劫にわたっていかなる調停も不可能である。真の調停はこの対立を解いて以て一段高き第三のものに変えることでなければならない｜ Die ganze Fabrik war im Nu ***in hunderttausend Stücke*** zerflogen.　全工場は見る見るうちに木葉微塵となつて飛散した｜ Er versteht die teuflische Kunst, Feinde ***in Freunde*** umzukrempeln.　かれはまるで着物を裏返すように敵を変じて味方にするという悪辣な腕前を持っている｜Die häßlichen Raupen verwandeln sich ***in Schmetterlinge und Falter***.　みにくい芋虫が一変しては蝶となり蛾となる｜Jetzt wollen wir das Gesagte ***in eine Definition*** zusammenfassen.　では今まで申し述べた所を要約して定義を作つてみましょう｜ ***In einen Strauß*** gebunden, sehen auch die Feldblumen sehr schön aus.　束ねて花束にすると野の草花も非常に美しく見える｜Das Rampenlicht verzaubert Lumpen und Fetzen ***in kostbare Gewänder***.　フットライトは不思議な魔力でボロをも錦と見せる｜ Der anfängliche Eifer artet schließlich ***in eine flaue Schlenderei*** aus. 最初の熱心が段々とだらけて遂にずるずるべったりになつてしまう｜ Zwei gerade Linien, welche zwei Punkte gemein haben, fallen ***in eine*** zusammen.　共通の二点を持つ二個の直線は合致して一個の直線となる｜Er hat nur den wohlbekannten, alten Stoff ***in eine moderne Form*** umgegossen. 彼はよく知れている古い題材を現代的な形式に焼き直したに過ぎない｜Auf ihrem höchsten Gipfel geht Philosophie ***in Religion***, Religion ***in Philosophie*** über.　最後の所へ行くと，哲学も宗教に，宗教も哲学に移っていく｜ich fing an, die Geschichte des jungen Mannes weniger anziehend zu finden, weil sie mir ***in eine gewöhnliche Liebesgeschichte*** auszuarten schien. (Hauff)「私は，その若い男の話すことが，普通の好いた惚れたの話になっていってしまうようだったので，それほど魅力的なものと思わなくなり

始めていた」｜ Jede Diagonale teilt ein Parallelogramm ***in zwei kongruente Dreiecke***.「二本の対角線はそれぞれ，平行四辺形を二つの合同の三角形に分割する」｜ Läßt man Sonnenlicht auf ein Glasprisma fallen, so wird es nach seinem Durchgange ***in ein farbiges Band***, ***das Spektrum*** zerlegt. (J. B. Messerschmidt) 太陽光線をプリズムにあてると，それはプリズムを通過した後で色彩のついた帯，すなわちスペクトルに分解される」｜ Man kann unter bestimmten Verhältnissen Kochsalz durch den elektrischen Strom ***in metallisches Natrium und Chlor*** zerlegen. 「一定の条件のもとで食塩は，電流を通すことによってナトリウムと塩素に分解することができる」｜ Die Speicheldrüsen produzieren das Ptyalin, das die Stärke ***in Traubenzucker*** überführt. 「唾液腺は，澱粉をブドウ糖に変えるプティアリンを作り出す」｜ Er versteht es, sein Können (seine Beliebtheit) ***in klingende Münze*** umzusetzen. (Duden)「彼は自分の能力（人気）をお金に変えるすべを心得ている」｜ Der schwedische Naturforscher Linné ordnete vor über 200 Jahren alle lebenden Wesen nach ihren verwandtschaftlichen Beziehungen ***in ein System***.「スウェーデンの生物学者リンネは，200 年以上も前にすべての生物をその親縁関係にしたがってひとつの体系に整理した」

♥「結果の in」とともに用いられる動詞は,「意味」はそれぞれ違っても,「意味の型」は machen または werden である。

♥「結果の zu」と同じ用法である。ただし: 1) in は，変化する「経過」と「移り行き」をじょじょに進んでいく過程として表現するが, zu は移り変わって到達した最後の状態におもに注目させる; 2) in は到達の目的がハッキリしないで，時には無限なることを思わせるが，zu は，到達すべきところに到達すればそれでハッキリと形がつくことを思わせる。

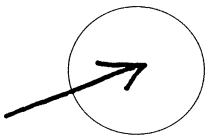
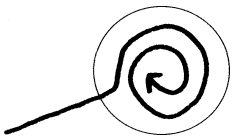
【和文独訳の実際: S. 65-67; 独作文教程: S. 451-453; 文例集 (83) 従事方面の in: S. 2-26】

⑧ 転化終結の in　【3 格，4 格】

in etwas enden「... の結果となる」｜ ***in etwas*** gipfeln「... で頂点に達する」｜ ***in etwas*** münden「... に流入する」｜ beide Eltern vereinigten sich ***in der Zufriedenheit*** mit ihm. (Kleist: Der Findling)「両親は意気投合して彼に満足した」｜ und der ***in zwei gewirbelten Spitzen*** auslaufende schwarze Schnurrbart wirkte nicht nur gefärbt, was er natürlich war, sondern zugleich auch wie angeklebt. (Th. Fontane)「そして二つのグルグルと巻かれてとがった先っぽで終わっている黒い口ひげは, 染めてあるような印象を与えただけでなく（もちろん染めてもあったのだが）, 同時にのりで貼りつけたように見えた」｜ Hier endete der Steilhang des Ufers ***in einer Hügelzunge***, (Ernst Wiechert)「岸の急斜面はここでずっと伸びた丘になっていた」｜ Auch Comtes "positive" Soziologie endet also ***in einer Utopie***. (Hans Freyer)「コントの『実証的』社会学も，そういうわけで夢物語に終わっている」｜ Zwei Kasus fielen durch lautliche Vorgänge ***in einer Form*** zusammen. (Karl Brugmann)「二つの格は音声上のプロセスによりひとつの形となった」｜ Die beiden kurz von uns angedeuteten Richtungen der Vernunftphilosophie münden in der

Hegelschen Philosophie zusammen. (Georg Lasson)「簡単に触れた理性哲学の二つの傾向は，ヘーゲルの哲学において一つになった」｜ Das Ergebnis läßt sich ***in drei Punkten*** zusammenfassen. (Zeitung)「結果は 3 つの点に要約することができる」｜ Der ansteigende Gang hat an einem Punkt eine Abzweigung ***in einen waagerecht verlaufenden Flur oder Korridor***. (Willy Bischoff)「登りになっている通路は，あるところで水平に走る廊下あるいはホールへと分かれている」｜ Der Unwille brach zuletzt ***in ein allgemeines Murren*** aus. (Schiller)「不機嫌はついには全員の不満となって爆発した」｜ Plötzlich brach er ***in ein konvulsivisches Gelächter*** aus. (Heyse)「突然彼はけいれん性の大笑いを発した」｜ Dieses unerwartete Schauspiel zog die jungen Gemüter mit Gewalt an sich; besonders auf den Knaben machte es einen sehr starken Eindruck, der ***in eine große langdauernde Wirkung*** nachklang. (Goethe)「この予期しなかったお芝居は，若者たちの心を強烈に引きつけた。特に少年たちに強烈な印象を与えたが，その印象は大きな長く続く効果となって心に残ったのだ」

♥ 4 格支配は「運動型」であり，3 格の場合は「力が入る」：

4 格支配  3 格支配 

【文例集 (28) 前置詞（一般）: S. 76; 文例集 (83) 従事方面の in: S. 27-41, 42-53】

⑨ 展張方向の in　【4 格】

●「展張方向」とは，「運動方向」・「成長方向」・「拡大方向」・「傾向」と言ってもよい。「展張（sich erstrecken, sich ausdehnen）」という概念は，この用法の一つの特殊な場合にすぎないが，この用法全部に対して最も代表的なものである。

Die Zeit erstreckt sich sowohl ***in die Vergangenheit*** als auch ***in die Zukunft***. 時間は過去の方に向かって延びていると同時にまた未来の方にむかっても無限である｜ Die Kurve der Lebensmittelpreise geht steil ***in die Höhe***. (Zeitung)　食料品の価格曲線ははね上る｜Ade nun, ihr Berge, / du väterlich Haus! / Es treibt ***in die Ferne*** / Mich mächtig hinaus. (Justinus Kerner)　故郷の山よ，いざさらば，/ わが生れ屋よ，いざさらば，/ 動きてやまぬ旅心，/ 牽かるるままに出で立つわれ｜ Ich schweife mit meinem Blick ***in die Runde***. (Goethe)　私は彼方此方と周囲を見渡した｜ Es war ausgemacht worden, daß jeder ***in die Runde*** seinem Liebchen mit einem kleinen, improvisierten Liedchen zutrinken solle. (Eichendorff)　みんな，順々に立って，自分の愛人に向かって何かちょっとした即興の小唄を歌って乾杯するということに話がきまっていた｜ Das Gesicht des Oberförsters zog sich ***in die Länge***. (Ebner-Eschenbach)　林野局長さんの顔は見る見るたてに長くなつた｜ Darum so mache dich auf, und zeuch durch das Land ***in die Länge und Breite***; denn dir will ich's geben. (1. Mose 13, 17)　されば汝等出で行きて彼の地を縦横に跋渉すべ

し。われ之れを汝等に与えんと欲す｜ Viele waren mächtig ***in die Länge*** geschossen, sehr auf Unkosten der Breite. (Hesse)　かなり多くの者は，横の分まで縦に伸びたものと見えて，ひどく背が高くなってしまっていた｜ Der Doktor ging immer mehr ***in die Breite***, und fast schien es, als ob er kleiner würde. (Ebner-Eschenbach)　博士殿はだんだんと横に背が伸び, 縦の方は殆んど縮んで行くのではないかとさえ思われた｜Lies viel, nicht vielerlei, d. h. mehr ***in die Tiefe*** als ***in die Breite***. (Zeitung)　多く読め, 多くの物を読むな，というのはつまり，広く読むよりはむしろ深く読めということである｜ ... sein Körper war noch so groß, als vor sieben Jahren, da er zwölf Jahre alt war, aber wenn andere vom zwölften bis ins zwanzigste ***in die Länge*** wachsen, so wuchs er ***in die Breite***. (Hauff)　... かれの身体は，かれがまだ十二歳であった当時と同じ位の大きさであったが, 他の者は十二歳から二十歳にかけて上下に伸びたのに, かれは前後左右に延びてしまったのである｜Der Angeklagte steht da wie hergeweht. Aus welcher Richtung man ihn auch betrachtet, er neigt sich beängstigend ***in die Schräge***. (Zeitung)　被告は，まるで風のまにまに吹き寄せられてやって来たような恰好に見える。どっちの側から眺めても，今にも倒れそうに傾いた姿だ｜"Ich werfe!" Mit einem Ruck löst sich die Last. Wir gehen ***in die Kurve*** zur Beobachtung und fliegen unser Ziel von neuem an. (Zeitung)　" 投下！" 機を一揺り揺って爆弾は機体をはなれる。それから着弾観測のために旋回，次いで再び目標に向う｜ Die Bäurin konnte nicht ins Klare kommen, was das Gerede ***in die Kreuz*** und ***in die Quere*** bedeuten solle. (Jeremias Gotthelf)　いったい何のためにコウ話が縦横十文字にガヤガヤと乱れ飛ぶのか，百姓のおかみさんには全然腑に落ちなかった｜ ... einige Episoden hätten kürzer sein können und das Detail war manchmal etwas zu üppig ***ins Kraut*** geschossen. (Spielhagen)　... そのうちの二，三の挿話は少し冗漫にすぎ，時として細部があんまり詳しく発展しすぎる嫌いがあった

♥「展張方向の in」は，具体的な in die Höhe, in die Runde, ins Kreuz, ins Unendliche などの表象から出立している。

♥ zum Stehen bringen「動きをとめる」と in Bewegung setzen「動かす」の違いに注目。zu は達すべき状態に達すればそれで一応けりがついて動作が一完結することを意味するが,「in と 4 格」は，その状態に達した後といえどもまだしばらく動作が継続され, そこにまだ程度や激しさや方向や，その他いろいろな複雑な要因が残ること, いわば方向としては無限に続くことを考える。つまり，それから先が問題だ，ということを意味する。

♥「展張方向」とは,「無限一方向運動」と言ってもよい。

♥「展張方向の in」という広い意味形態にあっては,「外部とか内部とか」いう考え方を離れ，ただ「方向」と「勢い」の二つの Momente のみがその本質である。

♥「展張方向」も後出の「展張限度」も，in と 4 格の持つ指向性と運動惰性をさらに一層強く表現しようとして，句の最後（または最初）に hinein, hinaus がつけられることがある: Wir planen in das Zukünftige ***hinaus***.

♥「展張方向の in」が修辞的贅句として用いられる場合: 無目標な展張方向の in は, die Welt, das Land,

die Nacht, der Tag, die Luft, das Meer, das Feld, die Gegend, die Stille その他と結合して, 単にある動作や状態の描写に修辞的指向性を与えて, その空間的あるいは時間的背景を生動せしめるための装飾として用いられることが多い: Das Kind schaut gar unschuldig aus seinen kleinen Augen ***in die Welt*** hinaus.　その子は無邪気な目つきをしている｜ Die Glocken tönen dröhnend ***ins Land*** hinaus.　鐘の音が殷々と響きわたる｜ Die Kinder wachsen und gedeihen munter ***ins Leben*** hinein.　子供たちが元気良く育っていく

【冠詞 I: S. 801, 1001-1020; 文例集 (80) in: S. 168-182】

⑩ 激突急停止の in　【4 格】(「展張方向の in」の一種)

●「展張方向の in」における「勢い」が，名詞によって示された物体に激突して急停止する場合。

● まるで大きなものが小さなもの「の中へ」突入するように思われるが，この「...の中へ突入する」という考え方は，ここでは適しない。「突入」の「入」を捨てて，「突」を採った考え方がすなわち「展張方向の in」である。

Varus stürzte sich ***in sein Schwert***. (Duden: "stürzen")　Varus は剣に身を投じて自刃した｜Wenn Ajax ***in sein Schwert*** fällt, so ist es die Last seines Körpers, die ihm den letzten Dienst erweiset. (Goethe)　Ajax は剣に身を刺して自刃したが, その際かれの介錯役を承わるのはとりもなおさず彼の体の重量である｜ Ich werfe mich ***ins Schwert***! (Grabbe)　余は自刃するぞ ｜ ... noch einmal beugte er sich über den toten Kleomenes, den geliebten Freund, und küßte die geliebten Lippen, und stürzte sich dann ***in sein Schwert***. (Heine)　... さらにもう一度，かれは親友 Kleomenes の亡骸の上に身をかがめ，なつかしの唇に口づけしたのち，おのが剣に身を刺して自刃したのである｜ ... es ist dann besser für dich, du öffnest dir die Adern oder du stürzest dich ***in dein Schwert***. (Sienkiewicz)　... そうなると，おまえとしては，むしろ動脈を開くなり，剣に身を刺すなりして自害した方がよい｜ Er hätte den Bauern Hühner stehlen wollen, und wäre erwischt. Auf der Flucht wäre Er ***in eine Sense*** gefallen, davon käme das kurze Bein. (Iffland)　君は，なんでも，農家から鶏を盗み取ろうとして，つかまったと云うではないか。そして，逃げる最中，倒れて鎌で怪我をし，そのために一方の足がびっこなのだと人は云っているぞ｜ Tot fiel sie ***ins Küchenmesser***, / Fritzchen war ihr letzter Hauch. (Wilhelm Busch) こけたら庖丁が刺さった，/ Fritzchen! と云ったまま死んじゃった

♥「激突急停止の in」の次におかれる名詞は, 何でも, その急停止によって最も激しい衝撃をこうむる一部分でありさえすればよいので，空間的な論理は完全に無視される。

Er lief nach der Wohnstube. Die Sannel eilte nach, aber die Tür war hinter dem Schneider ***ins Schloß*** gefallen. (O. Ludwig)　かれは居間の方へと駈けて行った。Sannel はかれの後を追って馳せつけたが，時既におそく，仕立屋先生，扉をピシャンと締めて彼女を入れなかった｜ Es kommt bei allen

Schlachtenentscheidungen darauf an, den Feind an seiner verwundbarsten Stelle so zu treffen, daß er unrettbar ***in die Knie*** bricht. (Benary)　決戦の要諦は, 敵の最も急所とするところを衝くことによって之れを一敗地に塗れて再び起つ能わざらしめるにある｜Ewald Wiskotten warf trotzig den Kopf ***in den Nacken***. (R. Herzog)　Ewald Wiskotten はふんぞり反ってツンとした｜Als ein rechter Bursch, der keinem Mädle gegenüber blöd ist, warf sich der Hannes ***in die Brust*** und ging auf die Schwarzhaarige zu. (O. Ludwig)　女の子ぐらいに怯気がついてはにかむような兄さんではない, とばかり, Hannes は大いに胸を張って，颯爽と黒髪の彼女に近寄った｜ Da wurde er unruhig und legte sich gewaltig ***in die Riemen***, ob er den Deich nicht wieder erreichen könnte. (Frenssen)　そこで彼は急に心配になって, 力にまかせて漕ぎ出し, なんとかして土堤のところまで船を近づけようとした｜Er kam richtig in den Strom, achtete genau darauf, daß die Lichter von Hilligenlei in der richtigen Stellung blieben und warf sich ***in die Ruder***. (ibid.)　ちょうど思った通りの流れの場所に来たので, Hilligenlei の人家の灯が或る一定の関係に見えるように注意しながら, 力にまかせて漕ぎまくった｜Kurze Kommandos, da poltert auch schon der erste Brecher der Brandung gegen den Bug. Hoch richtet sich das Boot auf, noch ein Brandungsbrecher, noch einer und noch einer —, Back- und Steuerbord nichts als weißer Gischt. Das ist die See, wie sie am furchtbarsten ist. ***In die Riemen***, Kameraden! und dann waren wir durch. (Zeitung 1938)　簡単な号令が数度発せられる，するともう早速岸辺の浪の初くずれがドッと船首におっかぶさる。ボートは殆んど垂直，するとまた崩れ浪，またもう一つ — 右も左も真白な泡で眼も昏むばかり。海は此処が親知らずの難所だ。" さあ漕いだ!" — 漕いだの漕がんの，そうしてやっと激浪を乗り切ったのであった｜Und seiner gesprengten Fesseln sich freuend, ließ er ein Jodeln ertönen, daß seine Kühe ***in den Bahren*** [= ***in die Raufen***] fuhren, die Pferde ***in die Zügel*** schossen, die Katze von dem Ofen sprang, der Hund aus seinem Stalle kroch. (J. Gotthelf)　鎖を破って自由の身となった嬉しさのあまり，かれは思わず声あげて Jodler を奴鳴ったので，牛はびっくりしてまぐさ槽の横木に鼻をぶっつけ，馬はあわてて駈け出しそうになって轡を噛み，猫は暖炉から下へ飛び降り，犬は犬小屋からはい出して来た｜ Der lahme Schuster Hagel kam auf seinem Tretwagen vorüber: "Eine Million!" schrie er, und warf sich mit Macht ***in die Speisen***. (Frenssen)　するとちょうどびっこの靴屋の Hagel が足踏み車を踏んで傍を通りかかり，" 百万円だ!" と怒鳴りさま，勢い込んで頬張りはじめた｜ "Fertig?" fragte der Fluglehrer. / "Fertig!" / Die Starter legten sich schwer ***in das Seil***. Wie junge Pferde, die zum erstenmal angeschirrt sind, stampften sie los. Sie keuchten und feuerten sich gegenseitig durch Zuruf an. Die beiden am Schwanzende konnten sich kaum halten ... / "Los!" (Zeitung)　" 用意はできたか？ " と飛行教官が訊いた。/ " できました!" / 綱を引く連中は力の限り綱を引いて駈けはじめた。まるで初めて車を曳く馬のように我武者羅に駈ける。息を切らしながら，しかもお互いに掛け声をかけて励まし合っている。尾の所を持って走る二人は段々と持ち切れなくなる ... / " よ一し！" ｜ Legt sich der Zögling dauernd zu stark ***ins Halsband***, muß ihm dies sehr lästige Ziehen mittels des Korallenhalsbandes abgewöhnt werden. (Theodor Zell)　犬がどんなにしても索を張って駈け出そうとして仕様がなけれ

ば，このうるさい癖をやめさせるためには，突起のついた首輪を掛けるの外はない

【冠詞 I: S. 1002-1006; 文例集 (80) in: S. 184-192】

⑪ 傾向の in, 趨行の in　【4 格】（「展張方向の in」の一種）

- 「展張方向の in」の本質はその指向性と「勢い」とではあるが，その「勢い」が，必ずしも「激しい勢い」ではなく，「趨向」，あるいは微妙な「傾向」になったもの。
- in の次には形容詞から作る抽象名詞が来る。
- in と4格の持つ指向性と運動惰性をさらに一層強く表現しようとして，句の最後（または最初）に ***hinüber*** をつけることがある: Das Rot schießt (sticht, spielt) ins Grünliche ***hinüber***.　この赤は少し緑に近寄って見える気味がある。

ein Blau, das Gott weiß wie ***ins Rötliche*** hinüberspielt　どうも何となく赤の方に近寄って見える気味の青｜ mit einem Zug ***ins Spöttische***　ちょっと皮肉味を帯びた調子で｜ mit leichtem Einschlag ***ins Sentimentale***　やや感傷的な調子の織りこまれた｜Es ist mit dem Menschen wie mit dem Baume. Je mehr er hinauf in die Höhe, ***ins Helle*** will, um so stärker streben seine Wurzeln erdwärts, abwärts, ***ins Dunkle***, ***Tiefe***. (Nietzsche)　人の心は，喩えて云わば樹のごとし。高きを望み，明るきを志すにつれて，その根はいよいよ地下に，下方に，暗きに，深きに向わざるべからず｜ Wir sehen heute nichts, das größer werden will, wir ahnen, daß es immer noch abwärts, abwärts geht, ***ins Dürre***, ***Gutmütigere***, ***Klügere***, ***Behaglichere***, ***Mittelmäßigere***, ***Gleichgültigere***, ***Chinesischere***, ***Christlichere*** — (Nietzsche)　現今ではもはや偉大になりそうなものと云っては何一つ眼に触れて来ない。凡てがまだ相も変らず低落転落の一路を辿りつつあることを感ずる。乾燥無味と，お人好さと，小ざかしさと，イージーゴーイングと，凡庸と，ナンセンスと，中国式と，クリスチャン式に向って停止するところを知らず転落してゆくことを｜Wir machen viel zu viel Veranstaltungen, um zu leben. Wir planen ***in das Zukünftige*** hinein, kehren dabei so vielen Herrlichkeiten, uns nahe zur Hand, den Rücken. (Grüne Post)　我々は，生きるための下準備がそもそも大袈裟すぎる。遠い将来に向って計画するのは好いが，すぐ手元にある沢山の好いことは弊履の如く捨てて顧みないのである｜Denn indem man die Kinder für einen weiteren Kreis zu bilden gedenkt, treibt man sie leicht ***ins Grenzenlose***, ohne im Auge zu behalten, was denn eigentlich die innere Natur fordert. (Goethe)　子供の視野を広くしてやるという教育は，ややともすると彼等を無軌奔放なものにしてしまう。そもそもかれらの内性が何を要求しているかということも考慮に入れなくてはなるまい｜Jeder Fortschritt der Technik steigert den Reichtum der besitzenden Klasse ***ins Unangemessene***, in schamlosem Gegensatz zum Elend breiter Gesellschaftsteile. (Döblin)　技術の進歩はすべて所有階級の富を不当に増進せしめるにすぎず，一方一般世間の大部分が塗炭の苦しみにあえいでいることを思えば，その対称は言語道断である｜ Sozialismus nenne ich die Gesamtheit der Theorien, welche das Sozialprinzip ***ins Extreme*** verfolgen, d. h. das Thema, daß der einzelne um des Ganzen willen da sei. (Diehl)　私は，社会原

則, すなわち個人は総体のために存在するに過ぎずという定則を徹底的に追いつめる学理学説の総体を社会主義と呼びたい｜ Wird lediglich der letztere (= Verstand) geübt, indes der erstere (= Wille) vernachlässigt bleibt, so entsteht nichts weiter, als eine Fertigkeit, ***ins unbedingt Leere*** hinaus zu grübeln und zu klügeln. (Fichte)　ただもっぱら後者（悟性）のみが働いて，前者（意志）が等閑に附せられるようになると，其処から生ずるものは，全然無対象なる思惟の空転と詮索の遊戯を事とする頭の好さである｜Ich schieße nur mit meinem Urteil ***ins Blaue*** hinein. Treffe ich, so ist es gut; wo nicht, so ist an dem Schuß nichts verloren. (Kleist)　私のこの推定はほんの盲撃である。まぐれ中ればそれでよし，はずれても，射ったことに損はない｜ Wenn wir in Europa mit Hunderten von Kilometern rechnen, muß man im Stillen Ozean in Tausenden denken. In diesem Meer, Pazifik genannt, steigern sich alle Maße ***ins Ungeheuerliche***. (Zeitung)　こちらのヨーロッパでは高々何百キロメートルが問題になるにすぎないが，事太平洋ともなれば千キロが単位である。太平洋と呼ばれる此の大海では，すべての寸法がとてもでっかいことになって来るのだ｜Die Obrigkeit selbst hielt es ihrer Aufmerksamkeit nicht für unwürdig, den Künstler mit Gewalt in seiner wahren Sphäre zu erhalten. Das Gesetz der Thebaner, welches ihm die Nachahmung ***ins Schönere*** befahl und die Nachahmung ***ins Häßlichere*** bei Strafe verbot, ist bekannt. (Lessing)　当局も，たとえ実力を行使しても芸術家をしてあくまでもその本分を恪守せしめるように対処することを, 必ずしも大人げない処置とは考えなかったらしい。芸術家は人体を美しく表現して見せるべきで，醜く表現したものは刑罰に処する , ということに決めた Thebae 市の法律は周知の通りである

【冠詞 I: S. 1011-1016; 文例集 (80) in: S. 149-162】

⑫ 経過遷延の in　【4 格】（「展張方向の in」の一種）

● 時間の経過を表す。(時間の経過は, およそ無目標な指向性の典型的な場合とも言うべきものであるから，終止点を考えない「展張方向の in」で表現するには最も適している）

Schon ***in den sechsten Mond*** liegt er im Turm / Und harret auf den Richterspruch vergebens. (Schiller)　牢に投ぜられてからもはや六ヶ月にもなり，なおいまだに判決の沙汰もございません｜ ***Ins zweite Jahr*** schon schleicht die Unterhandlung. (Schiller)　交渉は荏苒として長引き, これでもう二年目になる｜Das Wetter dauerte jetzt ***in den dritten Tag***. (Storm)　こんな天気になってからこれでもはや三日目である｜Hierzu kam noch die langweilige Belagerung des Kapitols, vor dem sie nun schon ***in den siebenten Monat*** untätig lagen. (Plutarch)　かてて加えてカピトールの丘の包囲戦が気の長い話で，睨み合ったままこれでいよいよ七ヶ月目となっていた｜ Georg hatte vielleicht lange gearbeitet und schlief nun ***in den Vormittag*** hinein. Er wollte ihn ohne dringenden Grund nicht stören. (Kapeller)　Georg は夜おそくまで仕事をしたらしく, 今日は朝寝をしていた。だからかれは，よほどさしせまった用事でもないかぎり，起したくなかった｜Der Marquis, sein Vater, in dessen Hotel er gebracht ward, rief, da seine Wiederherstellung sich ***in die Länge*** zog, Ärzte aus allen Gegenden Italiens herbei, (Kleist)　かれは父公爵の邸に運び込まれ

たが，公爵は，かれの回復が長引くのを見て，イタリアの各地から医師を召し寄せた

- 特に in den Tag hinein（その他 in den Augenblick hinein ほか）という句だけは特殊な意味を帯びて，いわば「大した考えもなく」(gedankenlos)，「ぼんやりと」(vor sich hin)，「ふらふらと」，「浮ついた調子で」，「無我夢中で」，「無計画に」などの意味になる。

JULIANE : Was meinst du damit? / HENRIETTE : Muß man denn immer etwas meinen? Du weißt ja wohl, Henriette schwatzt gerne ***in den Tag hinein***, und sie erstaunt allezeit selber, wenn sie von ohngefähr ein Pünktchen trifft, welches das Pünktchen ist, das man nicht gerne treffen lassen möchte. (Lessing)　JULIANE: それはどう云う意味で仰言るの？ / HENRIETTE: どう云う意味なんて，そんな事をいちいち考えていたら，口が利けなくなっちゃうわ。私は別に何も考えずに喋舌るのが好きなの。何も考えずに喋舌っているうちに，壷にはまった事を言っちゃうと自分でもビックリしちゃうんですよ。殊に其の壷というのが，はまっちゃあ不可なかった壷だったりすると，なおさらよ｜ Und so verschloß ich mich früh in mir selbst und gelangte bald zu einer vorzeitigen, altklugen Resignation, in der ich mich endlich fast behaglich fühlte, zumal ich wohl bemerkte, daß ich dadurch über gewisse Täuschungen und kindische Leiden hinausgehoben wurde, die der ganz naiven, ***in den Tag hinein*** lachenden Jugend nicht erspart bleiben. (Heyse) と云ったようなわけで私は早いうちに私自身の中へ引っ込んでしまって，そのうちやがて，年の割にしてはとてもませた大悟徹底の心境に辿りつき，ついには其の心境が気に入り出した。というのは，普通の純情な，大した考えもなく笑って暮している若い者達の陥り勝ちな或種の幻滅と幼稚な悩みをそれによって超越することが出来ることに気がついたからである｜Und an dem Exempel da kann Sie's ersehen, daß der liebe Gott die Welt nicht so ***in den Tag hinein*** hat erschaffen, sondern hat sich was dabei gedacht, warum er reiche Leut' und arme Leut' hat erschaffen. (Luidwig)　此の例に徴しても明らかであるごとく，神様は此の世の中を決して何の考えもなくお創り遊ばしたのではなく，それぞれちゃんと何かわけがあって金持と貧乏人とをお創りになったのだ｜ Man giebt die Herzen jetzt nicht mehr so ***in den Tag hinein*** weg. (Lessing)　今日ではモウ，大した考えもなく男の人に惚れるなんていうことは流行りませんよ｜ Wer immer für den Tag arbeitet, ist es bei dem nicht auch natürlich, daß er ***in den Tag hinein***lebt?　その日稼ぎをしていると，考え方までその日暮らしになるのは，こりゃまことに無理もないことですよ

【文例集 (80) in: S. 198-203, 204; 冠詞 I: S. 1017-1020】

⑬ 展張限度の [bis] in　　【4 格】

- 上記の「展張『方向』の in」は，徐々に「... に至るまでも」という「展張『限度』の [bis] in」へと移行して行く。
- そのもっとも典型的な場合が in die Huderte gehen「数百におよぶ」，in die Tausende gehen「数千に

およぶ」という成句である。数名詞の複数形を用いて，しかも必ず定冠詞を伴うのが特徴。

Sie verlangten ungeheure Summen, die mindestens ***in Zehntausende*** gingen. (Zeitung)　かれらは，すくなくとも数万マルクに達する巨額を要求した｜In der amerikanischen Großstädten dagegen gehen die Zahlen hoch ***in die Hunderttausende***. (Zeitung)　それに反して，アメリカの大都市では，無慮数十万という数字を示している｜ Die Unterzeichnung jener Riesenschecks, die ***in die Milliarden*** gehen, steht verständlicherweise noch aus. (Zeitung)　数十億マルクにも及ぶと言われるこの巨額の小切手の署名がいまだもって行われていないのは無理もないことである｜Die Gesammtsumme der vom thermidorischen Rückschritt Vernichteten genau oder auch nur annähernd genau anzugeben, ist keine Möglichkeit vorhanden. In der Provence allein belief sie sich ***in die Tausende***. (Joh. Scherr)　テルミドール反革命の際に殺された者の総数を詳細に，否，たとえその近似数をすら挙げることは到底できた話ではない。プロヴァンス地方だけでも数千に及んだ｜ Wenn auch die neugeborenen Kinder nicht allzu teuer waren, — aus einem besonderen Fall erfährt man, daß der Mutter etwa fünfzehn Francs für ihr Kind bezahlt wurde, — so verlangten die Arrangeure doch um so größere Summen: Beträge, die wenigstens ***in die Tausende*** gingen. (Fuchs)　産児の相場そのものは別にそう大したものではなくても — ある特殊な一例について見ると，産児一人を売って 15 フランの支払いを受けた母親の例がある — 世話人は相当の額を要求した。少なくとも数千フランに達する額だったらしい

●「展張限度の [bis] in」の次には，とにかく「領域」として考えられる名詞（したがって定冠詞）が要求される。以下の形容詞の中性名詞化は，「域」を考え，「世界」を脳裏に描いて用いられている。

Die Gerichtsakten vermehren sich [***bis***] ***ins Unermeßliche***.　裁判書類はほとんど数えきれないほど膨大になる｜ Die Spannung wächst mit der Zeit [***bis***] ***ins Unerträgliche***.　緊張は時と共に耐え難きほどの程度に達する｜Die Unordnung um ihn her wuchs [***bis***] ***ins Erschreckende***.　かれの身辺の乱脈は恐る可き状態にまで増大した｜Die Gefahren der Nationalisten stiegen [***bis***] ***ins Beängstigende***.　国粋主義の危険は相当憂慮すべき状態に達した｜ Er übertreibt die Wirkung des Mittels [***bis***] ***ins Grenzenlose***.　かれはこの薬剤の効き目を無際限に誇示する｜ Die Kindererziehung darf sich nie ***ins Kleine und Äußerliche*** verlieren.　子供の教育は，あまり細かな外形的な問題にこだわってはいけない｜ Sein Pessimismus versteigt sich geradezu [***bis***] ***ins Krankenhafte***.　かれの悲観論も，こうなるとむしろ病人じみて来る｜ Seine Eifersucht verläuft sich nachgerade [***bis***] ***ins Absurde***.　かれの嫉妬も，こうなるとモウむちゃくちゃだ｜ Die Geschäfte häufen sich bei mir direkt [***bis***] ***ins Schwindelerregende***.　私は，仕事がたくきん重なって，ほとんど目が廻りそうです｜ Die lage hat sich plötzlich ***bis ins Atemraubende*** verschärft. 局面がたちまち重大化して手に汗にぎらせる状態となった

●「展張限度の [bis] in」は，必ずしも数名詞と中性名詞化形容詞だけと用いられるとは限らない。一

般に「... に至るまでも」の意味でいかなる種類の名詞とも結合し，時とすると bis zu ... と何の差もないことがある。

So ging das Leben Kants durchgängig wie das regelmäßigste aller Zeitwörter; alles war überlegt, durchdacht, nach Regeln und Maximen bestimmt und festgesetzt, ***bis in die kleinsten Umstände***, ***bis in den täglichen Küchenzettel***, ***bis in die Farbe*** jedes einzelnen Stücks seiner Kleidung. (Fischer)　かくのごとく Kant の日常生活は最も規則正しい規則動詞のごとく規則的であった。諸事万端が最も些細な点に至るまで, その日その日の献立表, 衣類の一つ一つの色彩に至るまで, すべて予めよく考慮され, 考え尽され, 規律と信条とに従って決定確立されていたのである｜So vereinigen sich alle Charakterzüge Kants, denen wir absichtlich ***bis in ihre geringfügigen Äußerungen*** nachgegangen sind, zu einer seltenen und wahrhaft klassischen Übereinstimmung: der tiefe Denker und der einfache schlichte Mensch! (ibidem)　カントの人格の, 一見何でもないつまらない現われ方に至るまで詳しく取り上げて来たのには大いにわけがある，というのは即ち，かれの凡ての性格特徴は翕然として古来稀に見る，真に模範的な一致，即ち深き哲人と素朴単純なる一私人との一致へと集成しているからである｜Die beiden Grundzüge, welche den Charakter Kants ***bis in seine Einzelheiten hinein*** ausprägen ... (ibidem)　零細な事柄に至るまでカントの性格を特徴づけている所の此の二つの基本的な点は ...｜ Dort lautet es, mit dem jugendlichen Lyrismus der "Geburt", aber fast ***bis in den Wortlaut hinein*** identisch: (Bertram)　其処には, もちろん悲劇の誕生を書いた当時のような抒情調ではあるが, しかし用語にいたるまでほとんど全然同じ用語でこういう風に書いている:｜Denn trotz aller Abneigung dagegen war er ***bis in die Abschweifungen hinein*** methodisch. (Zeitung)　というのは，そういう事が頭っから嫌いであったくせに，かれは殆ど行き過ぎとも思われるほど系統的であった

♥ 上記の「⑫ 経過遷延の in」が bis をともなうことにより,「展張方向」は「展張限度」へと移行していく。

Am 14. Oktober anno domini 1806 braute ***bis in den Vormittag*** hinein ein häßlicher Nebel. (Bleibetreu)　千八百六年の十月十四日は, なんだか厭な霧が立ちこめて, 午前に入っても晴れやらぬ日であった｜Hernach schlief ich sehr ruhig und ***bis in den hellen Ta***g hinein. (Heyse)　それがすむと私はぐっすり安眠して，すっかり明るくなってもまだ起きなかった｜Man vergleiche z. B. die englische Fabrikgesetzgebung unsrer Zeit mit den englischen Arbeitsstatuten vom 14. ***bis tief in die Mitte des 18. Jahrhunderts***. (Karl Marx)たとえば現代の英国の工場法と, 十四世紀から初まってずっと十八世紀の半ばにまで及ぶ労働法規とを比較して見るが好い｜ Die Abstimmungen zogen sich noch ***bis in die späten Abendstunden*** hinein. (Zeitung)　票決はなお深更にまでも及んだ

♥「展張限度」も上記の「展張方向」同様，in と 4 格の持つ指向性と運動惰性をさらに一層強く表現しようとして，句の最後（または最初）に hinein, hinaus がつけられることがある。

【冠詞 I: S. 1014, 1017-1018, 1035-1042】

⑭ 着用・装身の in　【3 格，4 格】

● tragen（「身につけている」）の意味。

eine Dame ***im Grün***「緑色の服を着た婦人」｜ ein Mann ***in groben Stiefeln***「ごつい長靴をはいた男」｜ ein Herr ***in Hut und Stock***「帽子をかぶりステッキを手にした紳士」｜ Männer ***in Hemdärmeln***　上着を脱いだ姿の男たち｜ ein Greis ***in grauem Vollbart***「顔一面に白髪まじりのひげを生やした老人」｜ ***in weißem Gewand***「白い服を着て」｜ Er ist ***in Zylinder und Gehrock***.「彼はシルクハットをかぶり，フロックコートを着ている」｜ Der alte Wittig, ein grauhaariger Schmied, ohne Mütze, ***in Schurzfell und Holzpantinen***, rußig, wie er aus der Werkstatt kommt, ist eingetreten. (Hauptmann)「白髪頭をした鍛冶屋の老 Wittig が入ってきた。仕事場からやってきたままに，帽子をかぶらず，毛皮の前掛けをつけ，木のサンダルをはいて，すすにまみれていた」｜ Gefällt Ihnen das Kleid? Sie müssen entzückend ***darin*** aussehen.「このドレスがお気に入りですか？これを着たらきっと皆うっとりいたしますよ」｜ Lilli setzte ihren Hut auf und schlüpfte ***in ihre Jacke***. (Westkirch)「リリは自分の帽子をかぶりサッと上着を着た」｜ Er stand auf und half ihr höflich ***in die Jacke***.「彼は立ち上がり，礼儀正しく彼女が上着を着るのを手伝った」｜ Als ich mit Wang die Theatergarderobe betrat, sah ich die Schauspieler vor den großen Spiegeln stehen, sich schminkend oder ***in ihre bunten Prachtgewänder*** aus Brokatseide steigend. (Weisenborn)「Wang と一緒に楽屋に入ってみると，俳優たちが，化粧をしたり，色とりどりの絹の豪華な衣装を身につけながら，大きな鏡の前に立っているのが見えた」｜ j-n ***in Ketten*** (または ***in Fesseln***) legen　人を鎖で完全にしばって身動きできぬようにする

♥「着用・装身の in」は，「保有描写の mit」で表現することもできる。

【冠詞 I: S. 256, II: S. 23; 文例集 (80) in: S. 353-364】

⑮ 配量の in　【3 格】

●「一つ一つを別個のものとして」という「配量（Dosierung）」を表す。

"Ja, was ist dabei zu tun? ... Na, gut! ... Ich werde alles tun ... Sei nur beruhigt!" sprach er ***in Absätzen***.　"だって，こうなりゃモウどうにもなるまい ... まあまあ，いいじゃないか！ ... 出来るだけのことはやってみる ... 心配するな！" とかれはポツリポツリ言った｜ Zigarren ***in Stücken*** verkaufen　シガーをバラで売る｜ ***in großen Tropfen***　ボタボタと｜ ***in langen Zügen***　グーッと（飲む）｜ ***in kleinen Schlückchen***　チビリチビリと

♥ 最初の例の in Absätzen は，absatzweise または Absatz für Absatz とも，またふたつ目の in Stücken は stückweise とも言うことができる。

【冠詞 III: S. 206-207】

⑯ 帰依信奉の in　【3 格】

● 主として聖書の用語で in Gott, im Herrn, in Jesu Christo, in Christo などとして現れる。

Sie ist entschlafen ***in dem Herrn***. (Raupach)　彼女は主に在りて身まかりぬ(主に在りて＝神を信じて，よきクリスチャンとして）｜ Und wie die Harmonie des einzelnen Menschen gestört ist, wenn er nicht ***in Gott*** lebt, so sind alle menschlichen Ordnungen davon vergiftet, ... (Zeitung)「一人一人の人間が，もし神を信じて生きないのならばその調和が乱されてあるように，人のすべての秩序は以下のことによって毒されてあるのである」｜ Aber welch köstliche, hinreißende und doch wohlbedachte Worte waren das! So kann bloß ein Mädchen schreiben, das völlig ungeteilt ***in dem Geliebten*** lebt und webt. (Mörike)「なんと素晴らしくてうっとりするような，それでいてよく考えぬかれた言葉だろう！こういう風に書くことができるのは，愛する人と全く一体となって生きる娘だけである」｜ ***im Namen*** des ...　... の名において｜ ***im Interesse*** des ...　... の利害を代表して，... のために｜ ***im Sinne*** des ...　... の意味で｜ ***im Geiste*** des ...　... の精神を体して

♥「帰依信奉の in」が，「名」と「実」が一致することを示すのに対して，「名」と「実」が一致しないことを暗示するのが「偽装韜晦の unter」である: unter dem schönen Namen des ...「... の美名に隠れて」

【冠詞 I: S. 904; 文例集 (80) in: S. 139-148】

⑰ 占拠領有の in　【3 格】

● 単に或る状態にあるのではなく，その状態を己が利として占拠領有し，よってもって実力を発揮しうること（あるいはその正反対）の含み。

Sei ***im Besitz***, so wohnst du ***im Recht***.　財を持て，然からば理を持たん｜ Ihr wollt gegen die andern "***im Rechte***" sein. Das könnt ihr nicht, gegen sie bleibt ihr ewig "***im Unrecht***"; denn sie wären ja eure Gegner nicht, wenn sie nicht auch ***in*** "***ihrem Rechte***" wären. (Stirner)　諸君は他の者達に対して言分を通そうとしているが，それは出来ない相談で，彼等にとっては諸君の言分は永久に"間違っている"のである。というのは，彼等にも彼等の言分があるので，言分があればこそ諸君の向うを張っているのではないか｜ dabei aber wegen des kleineren Deplacements und des fehlenden teuren Seitenpanzers bezüglich der Neubaukosten dem gepanzerten Schlachtschiffe gegenüber ***im Vorteil*** waren. (Schwarz)　しかし同時に，排

水量が少なく，費用のかかる側甲が無いために，新造の費用の点で装甲戦艦よりも有利であった｜So war ich denn, Gott sei Dank, ***im Brote***. (Eichendorff)　そういったようなわけで，お蔭でまず食う方の心配は解決した｜ Dann zündeten sie Feuer an, und die Rebstöcke rauchten, weil sie ***im Saft*** waren. (Tumler) それから焚火をしたが，葡萄の蔓が生木だったので燻った｜ Aber wenn Euch nun bewiesen wird, daß Ihr ***im Irrtume*** seid, haltet Ihr es da auch für eine Sünde, den Irrtum zu widerrufen? (Holberg, Übers. R. Prutz) しかし，もし私があなたのお考えが誤であることを証明したら，その誤を誤として認めるということをも悪いことだとお思いになりますか？｜ Während in der Ebene noch der Spätherbst mit braunen, roten und gelben Farbtönen unumschränkt ***im Regimente*** saß, lag im Quellenbayner Revier bereits eine leichte Schneedecke. (Polenz)　平原の方では，或いは茶褐，或いは赤，或いは黄と，極彩色の晩秋がまだ時を得顔に我が世の春を謳歌しているのに, Quellenbayn の猟区ではもう雪が薄く地面を掩っていた｜ ***im Vorsprung*** sein　一歩先んじている，有利なハンディキャップがついている｜ ***im Nachteil*** sein 損な立場にある，見劣りがする｜ ***im Amte*** sein「在職している」｜ ***im Bild*** sein　ピンと来る，わかる｜ ***in Kraft*** sein「効力を有する」｜ ***in Macht*** sein ｜ ***in Gewalt*** sein｜ ***in der Mehrheit*** sein「多数派である」

♥ in の後の名詞は原則として定冠詞を温存する。

♥ この in とほぼ同じものに「所有の bei」がある。こちらは必ず無冠詞である: Er ist bei guter Gesundheit.「彼は健康である」

♥「占拠領有の in」,「所有の bei」の逆は aus, außer または von である: ***aus*** dem Gleichgewicht kommen「バランスを失う」，***außer*** Besitz bringen「財産を取り上げる」，***von*** Sinnen sein「分別を無くしている」

【冠詞 I: S. 854-855; 文例集 (80) in: S. 300-307】

⑱ 用件の in　【3 格】

● 用件（Angelegenheit），用談（Geschäft），利害（Interesse），依頼（Auftrag），用務（Dienst），問題（Sache）など「で」会ったり，話したり，発言したり，奔走する際には，これらの名詞には in を用いるのが習慣。

Ich hätte Sie ***in einer äußerst wichtigen Angelegenheit*** zu sprechen.　ちょっと非常に重要な用件でご面会したいのですが｜ Wer ***in seinem eigenen Interesse*** handelt, ist immer erfinderisch; da kann man was lernen. Wer aber ***in fremdem Interesse*** handelt, ist es im vollen Sinne des Wortes nicht, weil da der Egoismus, diese Triebkraft allen Erfindungsgeistes, fortfällt.　自分自身の問題で何かやる時には誰でも頭が良く，感心させられることも多いが，他人の問題となると，利己心というこのあらゆる頭の良さの原動力が欠けてくるから, 本当に頭が良いとは言われない｜Aus langjähriger Erfahrung kann seine Frau schon

dem Läuten der elektrischen Klingel anhören, ob einer ***im Auftrage*** irgend einer Körperschaft oder ***in einer Privatangelegenheit*** kommt.　彼の細君は，多年の経験で，呼び鈴の音を聞いただけで，このお客は何か公共団体の使いで来たのか，それとも使用できたのかということが判断できる｜ Heute morgen habe ich Sie zweimal ***in Geschäftssachen*** angerufen.　今朝二度も貴君の所へ事務上の件で電話をした

♥ 語によっては wegen を用いることもできる: ***Wegen dieser Angelegenheit*** habe ich Ihnen oftmals einen Brief schreiben wollen.　この件に関してはたびたびお手紙を差し上げようと思った

【独作文教程: S. 498-500】

⑲ 様式的手段の in　　【3 格】

●「言葉で言い表す」,「概念で考える」,「喩えで話す」,「現金で支払う」,「数字で示す」,「謎で話す」,「暗号で報告する」,「手紙で伝える」などの「で」は，mit, durch が自然なように思われるが，その他に主として「形」を思わせる in という，ごく自然な前置詞がある。

in Worten ausdrücken　言葉で言い表す｜ ***in Begriffen*** denken　概念で考える｜ ***in Gleichnissen*** reden 比喩で説く｜***in Bargeld*** zahlen　現金で支払う｜***in Ziffern*** angeben　数字で示す｜***in Rätseln*** sprechen 謎みたいな事を言う｜ ***in Chiffern*** berichten　暗号で報告する｜ ***in einem Brief*** mitteilen 手紙で通知する｜ ***in Prosa*** schreiben　散文で書く｜ ***in Wasserfarben*** malen　水彩で描く｜ Philosophieren heißt ***in Begriffen*** denken, was sich eigentlich nicht ***in Begriffen*** denken läßt, und ***in Worten*** ausdrücken, was eigentlich nicht ***in Worten*** auszudrücken ist.　哲学するとは，本当は概念で考えられぬことを概念で考え，本当は言葉で言い表し得ぬことを言葉で言い表すことである｜ Jeder, der zum erstenmal in einem Opernhause sitzt, wundert sich über manches, was bei solchen Singspielen üblich ist; er findet es z. B. sehr lächerlich, daß man seine Liebe ***in einem Liede*** erklären kann.　初めてオペラを観に行くと，誰でもこうした歌劇というものの慣習を不思議に思って，たとえば歌で相手を口説いたりするのを可笑しく感ずるものである

【独作文教程: S. 511-512】

⑳ 現場の in　　【3 格】

●「その現場を」。

Ich war die Herrin heute, und niemand war da, mich ***in meinem Tun*** zu belauschen oder gar mich daran zu hindern.「今日は私が主人だった。私が何かしているところを盗み聞きしたり，あまつさえその邪魔をしたりする者なんか誰もいなかった」

♥ in の次には動作名詞が来る。

【文例集 (29) 前置詞: S. 506-508】

㉑ 範囲・分野　【3 格】

Sonja Henie gewann 1936 in Garmisch-Partenkirchen bei den Olympischen Winterspielen die Goldmedaille ***im Eiskunstlauf***. (Zeitung)「Sonja Henie は 1936 年，ガルミッシュ・パルテンキルヒェンの冬季オリンピックにおいてフィギュアスケートで金メダルを獲得した」｜ Auf Urlaub zu verzichten, ist ***im Bankwesen*** verdächtig.「休暇に出ないというのは，銀行業においては疑わしい事態である」｜ Es enthält obendrein gut reproduzierte Abbildungen der alten Kunstwerke und bietet ein Musterbeispiel unterhaltender Belehrung, nicht nur ***in Sachen*** der Wissenschaft, sondern auch der bildenden Kunst. (Zeitung)「さらに加えてこの本は, 古い芸術作品の上質な複製図をのせており, 単に学問の分野だけでなく造形芸術の分野においても，楽しみながら学ばさせる模範的な例となっている」

【文例集 (80) in: S. 451-453】

㉒ Resignations-in　【4 格】

●「あきらめて」落ち着く先,「甘んじる」対象を表す。

sich ***in das Unvermeidliche*** fügen「運命に甘んじる」｜ Es gibt nur einen Trost für mich — das mohamedanische Kismet, die Resignation ***in das Unabänderliche***. (Blütgen)「私にとってはたった一つの慰みがあるだけです。それはイスラム教の宿命です, 避けられない運命に身をゆだねることです」｜ sich ***ins Unvermeidliche*** schicken「運命にしたがう」｜ sich ***in den Willen*** Seiner Majestät ergeben「運命を国王陛下の意志にあずける」

【文例集 (80) in: S. 14, 165】

㉓ 分析，分解　【3 格・4 格】

Die Welt ist ***in zwei Heerlager*** gespalten, ***in das demokratische und das kommunistische***.「世界は二つの陣営に分裂している。民主主義陣営と共産主義陣営である」｜ Um den Flächeninhalt aller gradlinigen Figuren zu bestimmen und zu vergleichen, löst man sie ***in Dreiecke*** auf. (Marx)「あらゆる直線的な図形の面積を求め，比較するには，その図形を三角形に分解するのである」｜ Die Partei hat sich ***in einzelne Verbände*** aufgelöst.「党はいくつかのグループに分裂した」｜ Durch Pepsin und Trypsin wird die Nahrung ***in einfachere, löslichere Stoffe*** gespalten.「ペプシンとトリプシンによって食物は，より単純で解けや

すい成分に分解される」｜ ***in Scheiben*** geschnittene Eier「輪切りにされた玉子」

【文例集 (29) 前置詞: S. 533-539, 541】

㉔ 盲目的没入・信用・放任の in　【4 格】

Denn die Währungsunsicherheit ist der tiefste Grund für die allgemeine Unsicherheit, unter der die Franzosen heute leiden. Der sparsame, auf die Sicherheit seines Lebens bedachte Franzose verliert mit dem Vertrauen ***in den Franc*** das Vertrauen ***in sich selbst***. (Die Zeit)「というのは，通貨が不安定であるということがフランス人たちが今日苦しんでいる不安のもっとも深刻な理由だからである。つつましく，自分の生活が確かであることを心がけているフランス人にとっては，フランへの信頼を失うことは自分自身への信頼を失うことになるのである」｜ Ich glaube gar, du setzest ein Mißtrauen ***in mich***. Wart, laß mich erst warm werden! (Schiller)「私にはそれどころか，お前が私に疑惑をいだいているようにさえ思える。待つがいい。私をまずは熱くさせるがいい！」

【文例集 (80) in: S. 165-166】

㉕ 関係を表現する in　【3 格】

- mit ...（「相手の mit」）をともなって，「～と関係している，争っている，齟齬する，一致する，接触を保つ，諒解がある，同盟している，交際している，文通している」などを表現する。

Was er tut, steht mit dem, was er sagt, ***im Widerspruch***.「彼はすることと言うことが矛盾している｜Was er will, steht mit dem, was er kann, ***im Widerstreit***.「彼が望むところは，彼ができるところと相反している」｜ Die beiden Kräfte stehen miteinander ***im Gleichgewicht***.「両勢力は均衡を保っている」｜ Alle Parteien stehen miteinander ***im Antagonismus***.「政党はすべて敵対している」｜Der Mensch steht mit den Naturkräften ***im Kampf***.「人間は自然の力と戦っているのである」｜ Die Polizei liegt mit den Rauschgifthändlern ***im Krieg***.「警察は麻薬販売人と戦っている」｜ Seit Jahren liegen wir mit unserem Nachbar ***im Prozeß***.「何年も前から私たちは隣と裁判で争っています」｜Seine Taten stehen mit seinen Worten ***im Einklang***.「彼の行為はその言葉と合致している」｜ Der Verräter steht mit unserem Todfeind ***im Bündnis***.「裏切り者は我々の宿敵と通じている」｜ Meine Bedienten waren ***im Einverständnis*** miteinander.「私の召使いたちは互いに合意していた」｜ Geschäftsfreunde müssen miteinander ***im*** (***in***) ***Kontakt*** bleiben.「取引先の者たちは接触を保っておかなければならない」｜ Ich stehe mit meinen Freunden in Amerika ***im*** (***in***) ***Briefwechsel***.「私はアメリカの友達たちと手紙のやりとりをしている」｜ Für ihn steht alles mit den Atomexplosionen ***im*** (***in***) ***Zusammenhang***.「彼にとってはすべてが原子爆発と関係を持ってしまう」｜ Der Erfolg steht nicht ***im Verhältnis*** zum ganzen Aufwand.「その成功はつぎ込んだエネルギーに見合うものではない」｜ Wir liegen mit unsern Arbeitgebern ***im*** (***in***) ***Streik***.「私たち

は雇い主に対してストライキ中です」

【冠詞: S. 852-853】

〔注〕

1) 東京: 三修社 1960 / 61 / 62。全 3 巻, 総計 2,301 ページ。
2) 例えば以下の文例中，意味内容 ①～㉕のそれぞれ最後にある「冠詞」指示ページを参照。
3) 以下を参照: 冠詞 I, S. 483, 784。なお「冠詞」校正委員の一人である藤田栄は，第 3 巻の「あとがき」で次のように述べている:「おそらく冠詞論のほかに前置詞論、形容詞論、副詞論なども，意味形態論を展開するための好テーマとして先生の意図のなかにあったことは，いろいろな機会に先生の話された言葉，とくに『冠詞』の説明のなかから読みとることができます。」（冠詞 III,「あとがき」, S. 640）
4) 関口存男: 意味形態を中心とするドイツ語前置詞の研究。三修社 1933; 1984。
5) これについて詳しくは以下を参照: 佐藤清昭 (2000)：関口存男による前置詞の意味分類 －「激突急停止の in」（ほか）と「前置詞論」－（所収：ドイツ語学研究（冠詞研究会）10, 11-48 ページ），45-46 ページ。
6) ドイツ語前置詞の研究 , 60 ページ。下線佐藤。
7) 関口存男 (1939): ドイツ語学講話 1。三修社 1981, 376 ページ , 太字関口, 下線佐藤。
8) ドイツ語前置詞の研究, 100 ページ, 下線佐藤。
9) これについて詳しくは以下を参照: 佐藤清昭 (2002)：前置詞研究のあり方。「関口存男：前置詞論」試案 － an を例として（所収：浜松医科大学紀要　一般教育 16, 31-53 ページ），36-37 ページ。
10) 以下例文の訳文において，関口自身の訳と区別するために，佐藤による訳にはカギ（「」）を附した。